

August 19, 2019

【前日の為替概況】ドル円、米 10 年債利回りが 1.5927%まで上昇したことで 106.49 円まで強含み

16日のニューヨーク外国為替市場でユーロドルは4日続落したものの、NY市場では下値の堅さが目立った。終値は1.1090ドルと前営業日NY終値(1.1107ドル)と比べて0.0017ドル程度のユーロ安水準。欧州中央銀行(ECB)政策委員会メンバーのレーン・フィンランド中銀総裁は前日に「9月にインパクトのある大規模刺激策を実施する必要がある」などと発言。ECBによる早期の追加緩和への期待からユーロ売り・ドル買いが先行し、1.1066ドルまで下落した。ただ、「ドイツは景気後退に陥った場合、財政均衡ルールを撤廃し新たな借り入れを行う用意を整える」との独シュピーゲル誌の報道をきっかけに独長期金利が急上昇するとユーロ買い戻しが優勢となり1.1107ドル付近まで値を上げた。

ドル円は続伸。終値は106.38円と前営業日NY終値(106.12円)と比べて26銭程度のドル高水準。前日に一時1.4732%前後と2016年8月以来の低水準を付けた米10年債利回りが1.5927%前後まで上昇したことを受けて、投資家心理が改善し、欧州序盤には一時106.49円まで値を上げた。

NY時間の安値は106.19円、高値は106.43円で値幅は24銭程度と小さかった。

7月米住宅着工件数は119.1万件と予想の125.7万件を下回った一方、7月米建設許可件数は133.6万件と予想の127.0万件を上回った。また、8月米消費者態度指数(ミシガン大調べ)速報値は92.1と予想の97.2を下回り、今年2番目の低水準となった。

ユーロ円は3営業日ぶりに小反発。終値は117.96円と前日NY終値(117.87円)と比べて9銭程度のユーロ高水準。ECBによる早期の追加緩和観測を背景にしたユーロ売りで117.58円と日通し安値を付けたものの、独財政出動に関する報道などで、118.17円まで反発した。

ポンドドルは堅調。「英最大野党・労働党のコービン党首は早期に内閣不信任案を出す方針」との報道が伝わると、英国の欧州連合(EU)からの「合意なき離脱」を巡る過度な懸念が後退しポンド買いが進んだ。21時30分過ぎに一時1.2175ドルと日通し高値を付けた。ポンド円も一時129.58円まで買われた。

【本日の東京為替見通し】ドル円、日本の7月の対米貿易黒字に要注目か

本日の東京市場のドル円は、8月22-24日に開催されるジャクソンホール会議を控えて動きづらい展開の中、日米通商協議に向けた日本の7月の対米貿易黒字に注目する展開が予想される。

トランプ米大統領が2016年米大統領選挙の公約に掲げていた中国の為替操作国認定を断行したことで、日本に対しても貿易不均衡是正の圧力を強める可能性が高まりつつある。

為替操作国の認定が、「2015年法(貿易円滑化・執行法)」による3条件(対米貿易黒字額、経常黒字額、為替介入実績)抵触ではなく、「1988年法(包括通商競争力法)」に拠るものに緩和されたことで、2条件に抵触している日本に対する貿易不均衡是正圧力やドル高・円安是正圧力が高まる可能性に要警戒となる。

中国は対米貿易黒字200億ドル超という1条件に抵触してはいたが、ドル・中国人民元の1ドル=7円越えを黙認したことで、消極的な為替介入と見なされて、為替操作国に認定され、「貿易戦争」から「通貨安戦争」へ戦線が拡大しつつある。米財務省の「為替報告書」では、2013年以降の日本銀行の量的金融緩和政策が円安要因と指摘されていることで、日本銀行の追加緩和策が「米ドル買い(米国債購入)・円売り(円資金供給)」の為替介入ではないものの、「日本国債購入・円資金供給」による円安誘導と見なされる可能性に要警戒なのかもしれない。

また、9月に予定されている第13回米中通商協議に向けて、トランプ米大統領が香港のデモに言及していること、台湾への戦闘機売却に対する中国の反発などで、米中通商合意の可能性を低下させていることも、ドル円の上値を抑える要因となっている。

地政学リスクとしては、中国周辺の香港や台湾問題の他に、北朝鮮による飛翔体発射の継続やインド・パキスタンのカシミール問題、イランと米国の軍事衝突の可能性などが挙げられる。

経済的なリスクとしては、米国債券市場での長短金利逆転(逆イールド)が警告するリセッション(景気後退)の可能性、アルゼンチンのデフォルト(債務不履行)の可能性などが挙げられる。

ドル円のテクニカル分析での上値の目処(めど)は、8月13日の高値106.98円、日足一目均衡表・基準線107.19円、下値の目処(めど)は、8月12日安値の105.05円、1月3日の安値の104.87円となる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○08:50 ◎ 7月貿易統計（通関ベース、予想：季節調整前 2000 億円の赤字、季節調整済 1508 億円の赤字）

<海外>

○17:00 ◇ 6月ユーロ圏経常収支（季節調整済／季節調整前）

○18:00 ☆ 7月ユーロ圏消費者物価指数（HICP）改定値（予想：前年比 1.1%）

○18:00 ☆ 7月ユーロ圏 HICP コア改定値（予想：前年比 0.9%）

○22:00 ◎ 7月ロシア失業率（予想：4.5%）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

16 日 06:28 トランプ米大統領

「中国との貿易戦争、かなりの短期で済む見通し」
「中国が追加関税に対して報復するとは思わない」
「9 月の米中協議は依然として有効」

16 日 06:41 カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁

「米連邦準備理事会(FRB)は金利について何をするか議論するだろう」
「更なる利下げに傾いている」
「危険な兆候と、楽観できる兆候が現れている」
「リセッションは基本的見通しではないがリスクはかなり上昇した」
「我々には利下げの必要がある可能性」

16 日 07:03 オア NZ 準備銀行(RBNZ)総裁

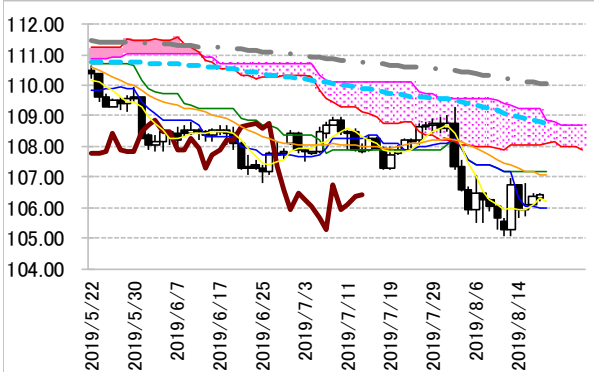
「国内外の低インフレ予想が利下げの主要因」
「我々は独立していて、責務も目標も明らか」

16 日 23:31 シュルツ独財務相

「EU27 カ国は団結しており、あらゆるブレグジットシナリオを想定」
「最善で唯一のブレグジットは既に合意した案」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

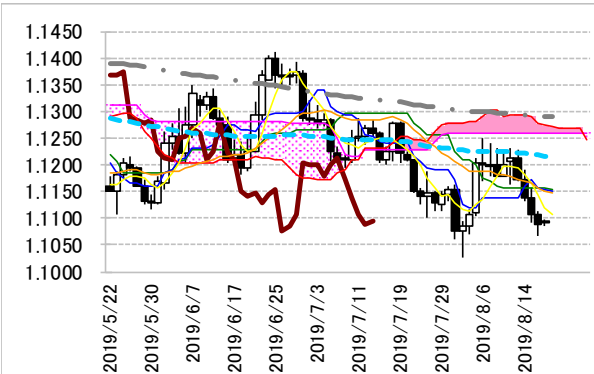


<ドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、13日の大陽線、一目・転換線を上回っていることで戻りの可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下回った場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	107.19(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	106.38
サポート 1	106.02(日足一目均衡表・転換線)
サポート 2	105.05(8/12 安値)

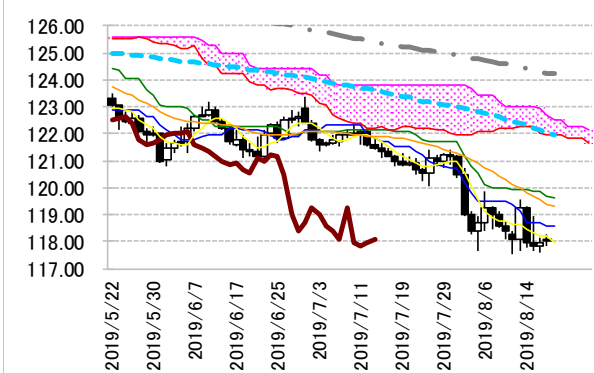


<ユーロドル＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。4手連続陰線で下落トレンドが継続する可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1154(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1090
サポート 1	1.1027(8/1 安値)

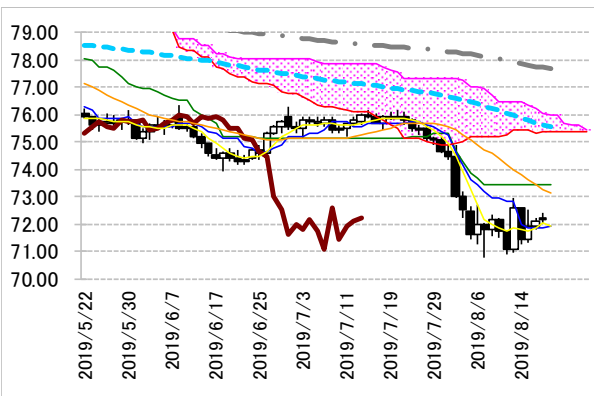


<ユーロ円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陽線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。14日の大陰線を15日、16日の2手で埋め切れていないことで下落トレンド継続の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	118.56(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	117.96
サポート 1	117.52(8/12 安値)



<豪ドル円＝12日安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、15日の孕み線、2手連続陽線で反発の可能性が示唆されている。

本日は、12日安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	72.93(8/13 高値)
前日終値	72.12
サポート 1	70.90(8/12 安値)

